学 校 評 価 書

学校名（東温市立拝志小学校）
令和5年2月6日

１ 学校の教育目標　気づき、考え、よく動く児童の育成
２ 経営の基本方針　地域・保護者と共に歩み、安全・安心でぬくもりのある学校づくりを進め、 確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成を図る。（評価・・・4：達成 3：ほぼ達成 2：達成されていない 1：改善が必要）

評価領域	評価項目 **太字：重点項目**	評価の観点	評価 教職員	児童	保護者	○ 考察　● 改善方策	学校関係者評価委員の評価
生徒指導	**いじめ・不登校等への対応**	いじめを許さない毅然とした指導と、不登校への予防的取組に努めた。	3.6	3.7	3.3	○ 「いじめ・不登校の対応」は、高い評価となっている。これは、生活アンケート等によって児童の悩みを把握したり、教職員間で気になる児童の情報交換を日常的に行い、チームで協力して問題を早期発見・早期解決できていたからだと考える。 ○ 「基本的生活習慣の定着」については、「アサガオ」を合い言葉にして挨拶指導を推進したり、登下校時の挨拶指導を続けたりしたことにより、地域の方にも進んで挨拶をしようとする態度の育ちにつながってきている。また、本校の特色的取組である基本的生活週間チェック「にこにこ貯金」を継続して行い、学校と家庭が連携して指導することで、基本的生活習慣の定着につながってきた。 ● 不登校傾向の児童に対して、東温市特別支援教育アドバイザーや適応指導教室の先生方と連携し、定期的に保護者との教育相談を実施し、児童の成長につながるよう根気強い対応を続けたい。また、不登校傾向の児童が少しでも学校に足が向くように、チーム支援体制を整えるとともに、学校での居場所づくりや教育環境等の整備を充実させていく。 ● 「児童理解の促進」では、保護者の評価が昨年度より低くなっている。日頃から教師が児童とのよりよい人間関係を築き、その中で児童理解を促進していくことを大切にしたい。また、一人一人の特性や人間性を捉え、個に応じた関わりができるよう努めたい。	・全体を通して見て、どの項目もほとんどが3以上であり、総じて高い評価だと言える。 ・学校に訪問した際など、児童の挨拶が丁寧でよくできていると感じる。ただ、もう少し元気よくできるとよいと感じることもあり、継続した指導が必要である。 ・近所の児童が集団登校で学校に行けていないのが心配である。不登校傾向の児童への適切な対応をお願いしたい。 ・SNS等、インターネットの使用に関わるトラブルも多くなっており、児童への適切な指導や保護者への啓発も考えていく必要がある。
	基本的生活習慣の定着	気持ちのよい挨拶や、早寝・早起き・朝ご飯などの基本的生活習慣の定着に努めた。	3.3	3.4	3.0		
	児童理解の促進	児童情報を共有し、児童理解に基づく教育相談、教育環境の整備に努めた。	3.7	3.5	2.9		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	学習状況に対応した学習指導内容・方法を工夫し、基礎・基本の充実を図った。	3.4	3.5	2.8	○ 大型教材提示プロジェクター「ワイード」を積極的に活用し、黒板にデジタル教科書や映像コンテンツを拡大して表示したり、黒板に大きく写した資料を生かしながら板書したりして、児童にとって分かりやすい授業になるよう工夫し、基礎・基本の定着に努めた。 ○ 家庭学習については、自主学習ノート「くすのは」や1人1台端末を使った課題などに取り組ませることで、能動的に学習しようとする態度の育ちにつながってきた。「にこにこ貯金」の取組もあり、保護者の協力をいただいて家庭学習の習慣が身に付いてきた。 ○ 「協働的な学びの充実」については、授業において「ハイリンタイム」という話合い活動を積極的に取り入れたり、ロイロノートを活用して互いの考えを交流したりしながら、協働的に課題解決をすることで、児童の満足感、達成感を高めることができた。 ● 1人1台端末の家庭への持ち帰りを進めているが、ネットに接続できない等、トラブルも多くあり十分な活用が進んでいない児童もいる。家庭においてより効果的な活用の在り方を検討したり、他校の実践を取り入れたりしながら改善を図りたい。	・基礎・基本の定着については、児童・教職員と保護者の評価の差が見られる。保護者の評価が低くなっており、そのギャップが生まれる理由を探り対応していけるとよい。 ・一律に同じ量の宿題ではなく、学年や個の学力に応じて、内容や量を考えて出すようにしていくとよい。 ・タブレットの操作等について、保護者に説明するような機会を設けてみてはどうか。家庭での活用がより進むのではないだろうか。
	家庭学習の充実	宿題の内容や量の工夫、確実な見取り・処理、保護者との協力により、家庭学習の習慣が定着するように努めた。	3.4	2.9	3.0		
	協働的な学びの充実	協働的な学びの場づくりを工夫し、主体的に考え、学びを深めるよう努めた。	3.4	3.7	3.3		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	**道徳教育の充実**	思いやりの心を育み、よりよくともに生きようとする児童の育成に向けて、道徳教育の充実に努めた。	3.4	3.7	3.4	○ よりよく生きるための基盤となる道徳性が高まるよう、道徳科の授業を要としながら全教育活動において心に響く指導を心掛けている。また、学校での学びや友達からだけでなく、温かな地域や保護者の姿から多くを学び、優しい気持ちが児童に育っていると考える。 ○ 「仲間づくり・集団づくり」は、高い評価となっている。これは「魅力ある学校づくり」を目指し、全校体制で「集団づくり」に焦点を当てた取組の成果と考えられる。各学級での「仲間づくり」の取組や集会・異学年集団活動の工夫・充実を図った効果が表れてきていると考える。 ○ 「健康づくり・体力づくり」では、コロナ禍ではあったが、感染対策をしながら、運動会、水泳記録会、陸上記録会、マラソン大会など、体育的行事に向けての取組を通して、児童の体力を高めるとともに、運動に親しみ健康的な生活をしようとする態度を育てることができた。 ● 昨年度に比べると集会や異学年集団活動等を充実させることができた。しかし、コロナ禍前の状態には及ばず、今後は感染症対策をしっかり行うとともに、仲間づくり・集団づくりのもち方を工夫しながら充実を図っていきたい。	・授業で関わった際に、困っている子を手助けしている様子が見られた。優しい児童が多いように見受けられた。また友達同士仲がよい様子がうかがえ、小規模ならではの取組ができているからではないか。 ・コロナ禍となり、特に3年生以下の児童は、人と関わるという経験が不足していると考える。そういったことも考慮し、今後、状況を見ながら異学年集団活動など、人と関わり合う活動に取り組ませてほしい。
	仲間づくり・集団づくり	異学年活動やなかよし遊びを実施し、学年を超えた関わりの中で、人間関係づくりを推進した。	3.4	3.7	3.4		
	健康づくり・体力づくり	健康的な生活への実践力を培う健康教育を推進した。	3.3	3.2	3.3		
	食育の充実	給食を通して、好き嫌いなく食べるなどの食に関する指導を推進した。	3.2	3.4	3.0		
特別支援教育	特別支援教育の充実	配慮を要する児童についての共通理解を図り、きめ細かい学習支援に努めた。	3.6	3.4	3.0	○ 巡回相談での指導講話を生かしたり、特別支援教育に関する校内研修を充実させたりして、個別の指導を要する児童に対してどのように関わるのかを教職員が意識統一して指導に当たることで、児童の成長につながってきている。 ● 学習面や行動面で気になる児童に対して、保護者の願いをよく聞き取り、学級担任と特別支援コーディネーターが連携し、それぞれの困り感を把握して適切な合理的配慮ができるようにする。	・発達障害のある児童に対して、しっかりとした個別の支援をしてほしい。また、一人一人特性や個性があり多様性を認めるような指導もこれからは必要だと考える。 ・個別の支援を要する児童に、先生が励ましの声を掛けている姿が見られた。よく支援をして、スムーズに学習できるような配慮ができている。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	見守り隊活動などによる、登下校の安全確保に努めた。	3.1	3.8	3.6	○ 地域見守り隊の方が大勢おり、毎日、児童が安全に登下校ができるよう、熱心にご指導いただいていることに感謝している。また、見守り隊活動期間中は、保護者の当番の方にも協力していただき、登校時の安全確保がしっかり図られている。 ○ 火災や地震だけでなく不審者侵入など、様々な想定で避難訓練を行うことができた。また、休み時間に予告なしの避難訓練を実施することで、災害時、児童が主体的に判断し、自分の命を守る行動が取れるような実践力を高めることができた。 ○ 新型コロナ対策については、基本的な感染回避行動を全教職員で共通理解を図り、感染予防の指導を粘り強く行った。また、暑い時期や運動をするときなどは、相手との一定の距離を保ったり、無言で行動したりすることを前提としてマスクを外してよいことなど、熱中症対策と併せて指導を行うことができた。 ● 今後も新型コロナウイルス感染症が学校教育に影響を与え続けることが危惧されるが、この感染症を正しく理解して恐れすぎず、しかし油断はせず、日常の感染回避行動について継続的な指導をしていく必要がある。	・登下校時の見守りの際、名前を覚えて呼んでくれたり、学校の話をしてくれたりする子がおり、うれしく思っている。地域の方が自分たちを見守ってくれているという安心感をもってもらえるとよい。また、先生や保護者も忙しく、登下校時の見守りは地域でという気概をもってやっていきたい。 ・様々な学校行事等がコロナの影響を受けたが、そのことで、行事の精選が図られたり、スリム化して行ったりするなどの工夫ができた。どうしても残していきたい行事については、感染症対策をしっかりした上で実施していけるとよい。
	防災教育の充実	災害時の対応について、教職員、児童、保護者の意識の高揚に努め、避難行動の訓練を行った。	3.5	3.8	3.5		
	新型コロナ対策	文部科学省から出されたガイドラインを理解し、共通理解をしたことを実践し感染予防に努めた。	3.7	3.7	3.5		
家庭・地域との連携	**開かれた学校づくりとコミュニティースクールの推進**	地域の教育力を生かしたり、地域に貢献したりする教育の推進に努めた。	3.4	3.5	3.4	○ 本年度は、開催を予定していた学校運営協議会を全て開催することができた。学校運営協議会委員の皆さんには、学校行事や参観日にも参加いただいており、本校の教育活動や児童の様子をよく見て、よりよくするための様々なご意見をいただいている。また、拝志っ子に対して深い愛情をもち、温かく見守ったり関わったりしていただいている。地域学校協働活動についてもご理解、ご協力をいただき、地域の専門的な知見を有する方々を学校の教育活動へとつなげてくださり、体験的で有意義な児童の学びを提供してくださっていることに心から感謝したい。 ○ ホームページの記事を毎日更新したり、学校・学年だよりを定期的に発行するなど、児童の様子や学校の教育活動等について保護者・地域の方々に広く発信するよう努めた。 ● 学校運営協議会における熟議も大切であるが、学校運営協議会の委員さんや地域の方がより気軽に学校に足を運んでくださり、子どもたちと活動を共にしたり、語り合ったりするようなこともできるとよい。新型コロナウイルス感染症対策をしながら、より地域の方々と交流を深める機会をつくるよう努める。	・今後、地域学校協働活動をより充実させていくとよい。地域の専門的知見をもっている人材を学校の教育活動により多く取り入れて、子どもたちが生きた学びを経験できるよう努めてほしい。 ・地域学校協働活動だけでなく、児童や保護者が積極的に地域の行事に参加したり、出会ったときに挨拶を交わすなど、日頃からの交流が活発になることも大切であると考える。 ・昨年度、6年生を送る会や卒業式などをYouTubeでライブ配信し、保護者や学校運営協議会委員の皆さんに見ていただき大変好評であった。ホームページや学校通信だけでなく、いろいろな情報発信の工夫があるとよい。
	情報発信	校報や学年だより、ホームページなどによる情報発信に努めた。	3.6	3.3	3.2		
特色ある学校づくり	プログラミング教育	プログラミング的思考を育成するため、各教科等で実践し、児童にプログラミングを体験させるよう努める。	3.1	3.2	3.2	○ 本校のこれまでのプログラミング教育への充実した取組を生かしながら、年間指導計画に沿って各学年で授業を実践したり、クラブ活動でプログラミングを楽しみながら行ったりすることを通して、児童のプログラミング的思考を高めることができた。	・本校のプログラミング教育はしっかりと実践が積み重ねられていることがホームページなどからよく分かる。これまでの実践を基に、更に工夫を加えながら児童のプログラミング的思考を育ててほしい。
施設・設備の充実	**ＩＣＴの有効活用**	パソコンや実物投影機、電子黒板などの整備された機器を有効活用し、教育効果を高めるように努めた。	3.6	3.5	3.4	○ 情報教育主任が中心となってミニ研修会を実施したり、ICT活用実践例を紹介し合ったりすることで、互いに学び合い、ICT活用の推進につなげるよう努めた。また、ICT支援員に授業準備や授業のサポートをしていただくことで、ICT機器の有効活用が進んだ。 ○ 地域連携コーディネーターさんや区長さんが中心となり、地域の方々に声を掛けていただき、校内の草刈りや剪定を行ってくださった。気持ちのよい学校教育環境が保たれるとともに、教師の負担軽減につながった。 ● 本年度は、ワイード、デジタルビデオカメラ、単焦点プロジェクターなど、様々な機器を新規導入したが個人差があるなど活用が十分とは言えない。1人1台端末も含め、活用がより進むよう校内研修の充実を図りたい。	・タブレットの持ち帰りが始まっているが、上村など通学距離のある地域の児童は、登下校時の荷物の重量が増えて大変である。家庭に充電器を置いているので持ち帰らないと充電ができないという問題があるので、学校用の充電器を購入し、学校で充電できるようにしておけば必要でない持ち帰りをなくせるのではないか。
	学習・生活環境充実への取組	潤いと安らぎをもたらす学校教育環境の整備と美化に努めた。	3.4	3.7	3.3		